



湖南中学校 英語教育改善プラン推進事業 公開研究会

聞いて読んで会話して～英語に浸る 50 分間～

11月22日(火)、河口湖南中学校で英語の公開研究会が開かれました。湖南中は山梨県英語教育改善プラン推進事業の研究指定校として3年間研究を進めており、今年が3年目となります。

小森先生とALTのルディ先生が授業のほとんどを英語で進める「オール English」での指導の下、2年4組の生徒が取り組んだ課題は、「コロナ後、職場体験プログラムに参加するために、エリが書いたレポートを読み、自分の考えを友達とやり取りして、志願書を書くこと」でした。

生徒たちはまず、志願書にどんなことを書けば良いか、タブレット端末のデジタル教科書で学びます。デジタル教科書では登場人物（エリ）の職場体験

レポートを文字と音声の両方で読むことができ、音声は何度も繰り返して聞くことができます。小森先生からは「エリがどんな職場に行ったのか」と「エリはその職場で何をし、どんな感想をもったか」という質問が出され、生徒たちはデジタル教科書から当てはまる所を探してアンダーラインを書き込みました。デジタル教科書は画面上で何度も書いたり消したりできるので便利です。

その後、自分がどんな職場体験をしたいのかについて、英語で話します。生徒の考えを広げるために、まず先生同士がやり取りし、その後、先生と生徒で、また生徒同士で会話を繰り返しました。友達のやり取りを聞くことと、自分の考えを話すことを通して、志願書に書きたいことがまとまっていきました。

英語の言語活動には「聞く」「話す」「読む」「書く」の四つがあります。今回の授業は「志願書を書く」という目的に向かって「聞く」「話す」「読む」の3つの活動が組み合わされています。これは英語教育改善プラン推進事業の目指す「児童生徒の発信力の充実」と「言語活動の充実」が体现された授業です。両先生の生きた英語の力と、一人一台タブレット端末の活用で、生徒たちの学びが深まり、50分間を通して英語を使って意欲的に表現しようとする姿が見られた素晴らしい授業でした。



英語の公開授業の様子



タブレット端末のデジタル教科書を使って学習を深めた2年4組の生徒

勝山中学校 生徒主体の平和集会

～北方領土問題とウクライナ～



生徒会長 渡辺隆之介さん

11月22日(火) 勝山中学校で平和について考える集会が開かれました。

8月17日(水)から20日(土)にかけて、勝山中生徒4名が山梨県北方領土青少年等現地視察事業に参加し、自分の目で北方領土を見、元島民の話を聞き、日北露交流センターで北方四島に住むロシア人との交流活動について学ぶなど、北方領土問題について深く学ぶことができました。世界地図をみると、ロシアの西隣の国がウクライナで、東隣の国は日本だと分かります。ウクライナ侵攻と北方領土問題は根っ

このところにつながっています。

集会ではまず、生徒会長の渡辺隆之介さんから今の日本と平和について関心をもってほしいという、本集会の趣旨が説明され、つづいて流石明さんから、「北方領土青少年等現地視察事業に参加して～四島の未来を創造する～」と題し北方領土視察の体験が語られました。自分の目で直接国後島を見たことや元島民の話を聞いたことに衝撃を受けるとともに、領土問題を解決するためにこの問題を多くの若い人



スピーチをする流石明さん

に伝え、関心を持ってもらうという使命感が生まれたと、言葉を選びながら、熱い思いを語ってくれました。ボランティア推進委員の渡辺莉花さんからは、自分たちにできることとしてウクライナの子ども達を支援するための募金活動の提案がありました。

最後に生徒会執行部の流石柚菜さんより、12月5日から2週間、北方領土問題についてのパネル展を開催するとの連絡がありました。この集会をきっかけに募金活動やパネル展見学を通して領土問題を自分ごととして考える生徒が増えることと思います。

パネル展から学ぶ

12月5日(月)1年生が北方領土パネル展で学習を行いました。学習に先立って梶原 斉校長先生から北方領土問題の概略についてお話がありました。生徒たちは展示を食い入るように見つめ、熱心にメモをとっていました。学習の終わりに展示について感想を求められた生徒は次のように話しました。

○北方領土の上の方で400人くらいの人たちが一生懸命北方領土を守ろうとしたり、自分たちの北海道を守ろうとしたりして頑張っていたことがすごく心に残って良い体験になりました。

○今回の北方領土の展示会を通して勉強して、これは日本のことであって他人事ではないので、自分ごととして考えていきたいと思いました。



パネル展で熱心にメモをとる1年生